

令和4年度 自己評価・学校関係者報告書

令和5年5月26日

御幸幼稚園・さくらんぼ保育園

1. 本年度の教育目標

- (1) 豊かな人間性、生きる力の基礎を育む
- (2) 表現力のある個性豊かな思いやりの心を育てる。
- (3) 物事に敏感に反応し、節度ある態度や姿勢を育てる。
- (4) 意欲を高め、自己発揮できるようにする。
- (5) 未来社会を生きる広い国際感覚を養う。
- (6) 家庭・地域との連携協力のもと保育・教育を進める。

2. 令和4年度 重点に取り組む目標・計画

- 教育課程の改善
- 教育環境の整備
- 教員の資質向上
- 健康と安全

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組みの状況
教育課程の改善	B	<p>幼保連携型認定子ども園教育・保育要領を踏まえ、教育目標・方針、乳幼児の発育・発達や生活の連続性を考慮し、年間計画、月案、週案、日案、個別の指導計画へと内容を細分化、具体的な保育計画を立案し取り組んでいる。</p> <p>園児の実態、保護者の要望、地域性、コロナ禍の状況等を加味しながら柔軟に保育内容の見直しも行ってきた。</p>
教育環境の整備	B	<p>乳幼児が興味や関心抱き、好奇心や探求心が呼び起こされるように環境を整え、子どもの発達に必要な多様な体験ができるように努めている。そのために必要な自然環境、遊具、材料、用具、生活に必要な物などを整えながら環境整備を行っている。</p> <p>近隣の公園やみかん狩り、芋ほり、緑地公園など園外保育に出かけ、各学年に合った様々な体験の場を設けてきた。</p> <p>食育においても、委託業者と定期的に打ち合わせを行い、給食の質の向上を図り、野菜作り、クッキングなどを通して食べることの楽しみ、食べ物への関心を持つように努めてきた。</p> <p>服育の観点から、制服を機能的なものに変更し、着脱も容易になったことから、子どもたちの活動の幅も広がった。</p> <p>継続的に保育環境評価スケール(ECERS)の研究・研修を深め、遊びと学びのための環境構成を総合的に可視化し、園児一人ひとりが周囲の様々な環境に働きかけ、興味や関心をもって関われるように改善している。</p>

<p>教員の質的向上</p>	<p>B</p>	<p>子どもたちの姿、心身の発達、ねらいに応じた保育内容、行事については学年会、リーダー会、職員会議、日々の終礼などで計画立案し、共通理解を深めながら進めている。日々の保育内容を子どもの様子、行事の写真やエピソード等を通して振り返り、充実した保育内容になるよう、各学年・クラスの状況や課題を明らかにして話し合うことで、次年度に生かすようにしている。</p> <p>大学の教授を講師として定期的に招聘し、研修を重ねることで個々の園児の発達の姿や課題を深めることが出来た。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、園外の研究会、公開保育の参観等は十分にできなかったが、保育環境評価スケール(ECERS)等のオンライン研修に積極的に参加し、実践発表、公開保育などを行い保育の質を高めることが出来た。</p> <p>「かがくあそび」を通して「考える力」「自分で試してみる力」を育む保育に取り組んできた。「0～6歳のかがかくするところの芽生え(かがく遊びのカリキュラム構築)」をテーマに研究し、その実践内容を昨年に引き続き保育雑誌(月刊「ひろば」)に連載することが出来、広く発信することが出来た。</p>
<p>健康と安全</p>	<p>B</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を図り、園内でコロナ感染者が発生した場合のマニュアルを作成し、保健所・市役所等関係機関と連携し対応にあたってきた。</p> <p>園児の安全を守り、楽しく生活できるように、施設、設備、遊具等を絶えず安全点検し、園児に危険防止の言葉かけ等安全教育行っている。</p> <p>けがや事故、病気が発生した場合は園長に報告し、看護師に声掛けし、即保護者に連絡をとり必要事項を伝え、医療機関を受診する等適切な処置を行っている。けがや事故の原因を明らかにし、情報を共有し、改善点を提案し合い、安全、衛生意識の向上に努めてきた。</p> <p>交通安全については地元警察から警察官を招聘し、定期的に交通安全指導を行っている。</p> <p>年間の災害・防火訓練実施計画をもとに様々な災害を想定した避難訓練を行い、子どもたちに命を守ることの大切さを理解させ、防火意識を高める指導している。</p>

評価(A:十分成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>昨年に引き続き新型コロナウイルス感染防止の徹底を図り、日々の保育活動や様々な行事を工夫しながら子どもたちの学び、心身の健やかな育成に努めてきた。</p> <p>幼児教育を行う上で共有すべき事項である「育みたい資質・能力」(「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力」)及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を全体の計画の中に落とし込み取り組みを進めた。</p> <p>継続的に「かがくあそび」に取り組んだ。乳児期から幼児期へ、さらに小学校の低学年への接続を念頭においたカリキュラム構成を考えて進めることが出来、保育雑誌を通して広く発信することができた。</p> <p>大学の教授を講師として定期的に招聘し、研究成果を学び、自らの保育内容を振り返り、適切なアドバイスを受け、保育の質を高めることができた。</p>

評価(A:十分成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった)

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
教育環境の整備	<p>子どもたちが落ち着いて過ごせるよう屋内外の環境を子どもたちの発達や状況に応じて整えていきたい。</p> <p>子どもたちが興味や関心をもって主体的に関われる環境を構成し、遊びに必要な遊具の充実を図り、遊びコーナーを創意工夫していきたい。</p> <p>今後も教育環境スケール(ECERS)の研究、研修を深め、乳幼児一人ひとりが周囲の環境に働きかけ、興味や関心を持って関われるような環境づくりの改善に努めたい。</p>
教員の資質向上	<p>一人ひとりの発達の特性を理解し、個別の対応や集団での活動など、計画的に環境を構成し、カリキュラムを作成し、保育・教育活動をより豊かなものにしていきたい。</p> <p>子どもたち自らが、今まで経験してきたことに自信を持つことで、自己肯定感を高め、小学校生活に対して期待を持つことができるよう、育みたい能力や資質としての「3つの柱」や自立心、協同性、思考力の芽生えなど「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)をもとに乳幼児の保育の充実を図っていきたい。</p> <p>研修・研究については自分なりの課題や視点を持って、積極的に園内外の研究会、研修会、公開保育等に参加し、専門的知識や技術等学んだことを教員全体で共有し指導力の向上に努めていきたい。</p>

6. 学校関係者評価委員会の評価

【保護者の評価】

- ・子どもが、進んで幼稚園に行きたいと登園できることが親としてとても嬉しい。
- ・「先生大好き、幼稚園大好き」という子どもの言葉が嬉しい。
- ・日頃の様子をHPなどで見られるようになるとなお良い。
- ・イロドリリンクやタブレットで子どもたちの活動の様子が見られることは評価できる。
- ・家庭ではできない体験(みかん狩り等)は子どもにとって貴重な経験、芋ほりなどもできればいい。
- ・体力向上に向けたマラソン大会もよかった。走るのが苦手な我が子の頑張る姿を見ることができた。
- ・体操服登園が多いので、制服を着る機会が少なくもったいないと感じた。
- ・習い事ができる機会を設けられていることは働く親としてはありがたい。継続して欲しい。
- ・怒りっぽい子どもにも忍耐強く接して下さることに感謝。親だつて怒ってしまうことも多いが、冷静に声をかける保育者を見て、自分も落ち着くことができた。
- ・英語や体操の授業も見せてほしい。
- ・コロナ禍で活動や行事が制限される中、開催方法を工夫しながら運動参観や運動会を実施するとともに、卒園児には一年間の思い出を収めたDVDが配布され、子どもの成長を感じることができた。
- ・0～2歳の運動会のDVDが配布され、皆と楽しみながら運動している様子が見られて良かった。
- ・コロナ禍で遠足など外に行くのは難しいと思っていたが、みかん狩りや深北公園、鶴見緑地公園、お別れ遠足が実施され、子どもは喜んでた。
- ・子どもに対する優しい声掛けや子どものこと、親のことを考えて対応していることが嬉しい。
- ・今年は新たにマラソン大会や球技大会が取り入れられ、子どもの励みになった。
- ・日頃の園での様子や行事の様子を写真や動画で見られるのが良かった。
- ・久しぶりに園での子どもの姿を直接見ることができて嬉しかった。「かがくあそび」も工夫を凝らし、大人でも興味をそそられるものが多かった。あそび一つ一つで子どもの好奇心、発見、思考を刺激して伸ばそうとする取り組みは評価できる。子どもものびのび遊んでいた。

【学識経験者による評価】

- ・子どもの育ちに必要な環境のデザインを、リソースを工夫しながら、柔軟に、タイミングよく構成し、その取り組みを振り返るサイクルが定期的な園内研修等を通して定着しつつある。
- ・自己評価に終わらず、第三者的な視点から保育・教育の取り組みを振り返る機会として学外の有識者などとの連携を意欲的に行なっている。
- ・園内の実践研究が継続され、外部資金獲得をはじめ、保育関連紙への保育実践の連載などの実績につながっている。

※財務状況

公認会計士により、適正に運営されていると認められている。